

## 核データニュース編集小委員会報告

### ■核データニュース編集小委員会

合川正幸（北海道大学）、岩本修（原子力機構）、大塚直彦（IAEA）、金政浩（九大）、小浦寛之（原子力機構）、中村詔司（原子力機構）、丸山修平（原子力機構）、山野直樹（放射線線量解析ネットワーク）

（敬称略、順不同）

### ■核データニュース発行報告

発行：下記のとおり発行いたしました。執筆者の皆様、ご協力ありがとうございました。

第-133号（通巻第169号）2022年10月26日公開

- 第34回 NEA 核データ評価国際協力ワーキングパーティ（WPEC）会合報告 岩本修ほか
- 科学と技術のための核データ国際会議
  - 会議概要 中村詔司
  - 実験・測定施設・測定手法・検出器 木村敦ほか
  - 核分裂 石塚知香子・江幡修一郎
  - ライブラリ・評価手法・フォーマット及び核データ処理・熱中性子散乱則・積分実験・原子炉用データ 國枝賢ほか
  - 宇宙核物理 小浦寛之
  - 教育・アウトリーチ 小浦寛之 [49]
- 「2022年春の大会」合同セッション「原子炉の廃止措置における放射化断面積データの現状と利用」
  - JENDL-5の放射化断面積データ 岩本信之
  - 近年の評価済み核データライブラリを用いた原子炉廃止措置のための放射化計算手法の課題と提言 奥村啓介
  - 廃止措置及び廃棄物処理処分における核データの利用と今後核データに期待すること 田中健一
  - 埋設処分に向けた研究炉の放射能評価計算とその適用方法について 河内山真美
- 第11回日韓サマースクールに参加して 足立恭介
- 学会賞論文賞 JENDL/DEU-2020：加速器中性子源の設計研究のための重陽子核データライブラリ 中山梓介
- 東京工業大学ゼロカーボンエネルギー研究所「千葉研究室」 石塚千香子

第-134号（通巻第170号）2023年2月22日公開

- シグマ委員会 60周年にあたって
  - シグマ委員会と JENDL 長谷川明
  - 想い返すことごと 吉田正
  - 核データ活動で出会った先輩達 水本元治
  - シグマ委員会 60周年を祝して 井頭政之
  - シグマ委員会 60周年にあたって思うこと 片倉純一
  - シグマ委員会の活動と今後への期待 中島健
  - 10年前の回想と次の時代を見据えて 渡辺幸信
  - シグマ委員会 60周年に寄せて 河野俊彦
  - シグマ委員会 60周年によせて 西尾勝久
  - シグマ委員会 60周年に思うこと 岩本修
  - シグマ委員会 60年の物語 深堀智生
  - シグマ委員会・核データ研究グループ年表

- 国際核反応データセンターネットワーク(NRDC) 2022 年会合 大塚直彦
- 核データ共分散に関する国際ワークショップ CW2022 千葉豪
- 第24回核構造・崩壊データ評価者ネットワーク会議 小浦寛之
- GRE@T-PIONEER 核データコースに参加して 大塚直彦
- 2022 年度核データ部会賞
  - 345 MeV/u  $^{238}\text{U}$  と Cu との反応で発生する中性子収量測定 杉原 健太
  - 核分裂片の平均全運動エネルギーの励起エネルギー依存性 島田和弥
  - アメリシウム 243 の 23.5 keV 近傍での中性子捕獲断面積の測定 児玉有

予告：下記の記事の掲載を予定しています。核データニュースを通して部会を盛り上げていくために、自薦・他薦問わず積極的な記事提案をお願いします。

第-135号（通巻第171号）2023年6月公開予定（題名はいずれも仮題）

- 反ニュートリノスペクトルの応用に関する技術会合 吉田正
- 「2023年春の年会」企画セッション「シグマ委員会設立60周年記念」
  - シグマ委員会60年の歩み 深堀智生
  - 核データ部会と今後の期待 西尾勝久
  - JENDL委員会とのかかわり 吉岡研一
  - シグマ委員会に期待すること 千葉敏
- 第34回 NEA 核データ評価国際協力ワーキングパーティ (WPEC) 会合報告 岩本修ほか
- 新博士誕生 佐藤光流
- 「最終講義」 千葉敏
- ノースカロライナ滞在記 李恩智
- ピラミッド内部でミュオンを測るまでの道のり 金政浩

#### ■学会予稿集の内容の核データニュースへの転載について

企画セッションの講演要旨を講演者本人がニュースに投稿いただく際、予稿集の本文や図表を転載に関する問い合わせを時々いただきます。学会事務局に「本文や図表を転載する場合、講演者自身による転載でも転載許可申請が必要か？」と問い合わせたところ「著者ご本人の予稿からの転載は、転載許諾手続き不要。出典元を必ず明記のこと。またこのような転載は著作権上の問題はないが、予稿が会期後1年間は参加料を支払った方、もしくは予稿閲覧権を購入された方のみ閲覧可能となっている点を踏まえ、予稿と同等のものが一方は有料・一方は無料、と本会内に2つ存在するという状況はできるだけ避けていただきたい。」と回答いただいています。

(以上)